

令和4年度九州地区特別支援教育研究連盟 総会 アンケート結果

研修会の評価

期間：令和4年6月10日(金)～7月8日(金)

方法：Microsoft Formsで回答（匿名にて処理）

回答：140件

対象：令和4年度九州地区特別支援教育研究連盟 役員および会員

※ 本連盟には以下の加盟団体の役員・会員が含まれます

福岡県特別支援教育研究連盟

佐賀県特別支援教育研究会

長崎県特別支援教育研究会

熊本県特別支援教育研究会

大分県特別支援教育知的障がい研究会

宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

鹿児島県特別支援教育研究会

沖縄県特別支援教育研究会

所属の校種

そのほか(義務教育学校等)
4

中学校
16

特別支援学校
38

小学校
82

議題①「役員の承認」について

議題②「昨年度の事業・会計報告」について

議題③「規約の確認」について

議題⑤「今年度の事業計画・予算案」について

- ・ 特になし

質問・意見:特になし
140

議題④「九特連ロゴについて」について

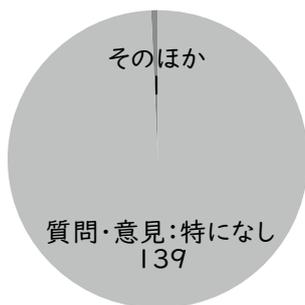
- ・ いいロゴだと思います
- ・ 素敵だと思います
- ・ とてもステキだと思います
- ・ 最高！
- ・ 鮮やかでナイス！だと思います！
- ・ とても良い
- ・ ロゴを作成することには賛成ですが、意見として次の2点をお願いします。①事務局で簡単に作ってしまうよりも、広く会員や学校等に投げかけ、公募の形で作成したほうが、周知にもつながり、研究会の趣旨の再確認もできるのではないのでしょうか。②特別支援教育の視点でのロゴマークの意味づけもほしいです

そのほか
8

質問・意見:特になし
132

盟章(ロゴ)については本連盟の趣旨を踏まえ、事務局において熟考を重ねた上でご提案いたしました。コロナ禍において再認識されたように、人と人との繋がりが何より大切な時代です。障害の重度・重複化、多様化が進む中でも、悩みを抱える先生方へ必要な情報を届け、また互いに共有することでよりよい指導・支援を進めていくことが重要だと考えます。ご指摘いただいた①②については、事務局として引き継ぎ今後の運営に活かして参ります。

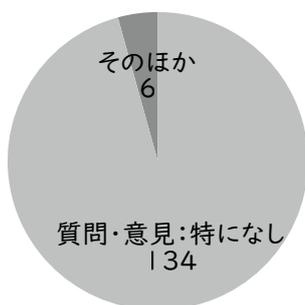
議題⑥「今年度の研究大会〈沖縄大会〉」について



- ・ 新型コロナウイルスが終息に向かわない中、九特連研究大会の企画推進において創意工夫されていることに敬意を表します。オンライン型と集合型の良いところを確認し、今後の在り方の参考となるよう願っております

令和3年度の熊本大会でも参加者のアンケートをもとに、事務局にてオンライン型のメリットとデメリットを丁寧にまとめていただきました。今年度の沖縄大会においても、各県事務局並びに参加する皆様からご意見・ご感想をいただき、「今後の在り方」を考える上での資料となるよう、まとめて参ります。

情報提供「分科会テーマの再編について」について



- ・ 時代にあって良い
- ・ 現状の教育課程編成や子どもたちを取り巻く環境を考えると提案の通り、改定していくことが必要だと思います
- ・ 全特連分科会と連動していた方が良いと思います
- ・ 全特連全国大会の分科会との関連があったほうがいいのではないかと思います。特に、全国大会では「交流および共同学習」「合理的配慮」にかかわる分科会が設けられている

全特連の分科会については、開催県がすべて設定することとなり、毎年テーマと分科会の設定数が異なります。そのため、厳密に合わせることは難しいのですが、本再編案については過去の全国大会の資料から、共通して設定されているものをピックアップしてご提案しております。ご指摘にある「交流及び共同学習」「合理的配慮」については、いずれも特別支援教育における重要なテーマです。したがって、今後は各県の判断により第6・7分科会として設定され、本連盟として実践と研究を深めていければと考えます。

- ・ 九特連では分科会の提案数が3本ある。各分科会ごとに、「小学部・小学校」「中学部・中学校」「高等部・高等学校」から1本ずつ提案するようにすると、多くのテーマの分科会が設けられるのではないかと思います

分科会の提案枠については、各県研究団体によって対応が異なりますが、おおむねどの県においても学校や地区・市町村へ割り当てがされているものと理解しています。そのような場合に、学校によっては高等部がない、市町村によっては高等学校がない、県によっては高等部・高等学校の団体加盟がない、などの事情があり運営に支障がでることも考えられます。ご指摘の内容については、事務局として引き継ぎ今後の運営に活かして参ります。

- ・ 知的障害特別支援学校中学部・高等部による各教科等の指導の発表については、第1分科会ででしょうか。第2分科会ででしょうか？

特別支援学校中学部・高等部の実践については、いずれも第2分科会にてご提案いただきます。あくまで対象となる児童生徒の生活年齢をもとに、第1分科会で小学校段階の6年間、第2分科会で中学・高等学校段階の6年間、とバランスよく割り振りをし、事例を通して研究を深めていければと考えています。

- ・ 分科会の提案について、開催県は全ての分科会で提案するようになっているが、運営もしながらだとかかなり厳しい。また、併置校であると他の団体の発表、県での発表が重なり、毎年2~3個の発表をこなしている。開催県は運営に専念できるかないか。また、第6、7分科会が開催県が決めることになっているが、決めるのに時間がかかる上に、決まってからの準備期間も短く当たった県は大変ではないか。第5分科会までの設定で良いと考える

研究大会の開催については各県において様々な事情があり、少なからず困難があるものと理解しております。とりわけ分科会の提案・設定については連盟規約ではなく、あくまで「基本的な考え方」や「内規」として確認している為、その都度開催県より事由を検討の上で提案し、評議員会・総会において決議を図ってもよいのではと考えます。

《問い合わせ》



令和3・4年度 事務局
山口 飛・桑江 広太
徳森 愛・玉城 百合香
廣渡 善治・石川 敦

電話: 098-877-4941 FAX: 098-876-4148
メール: okitokuken@as.open.ed.jp
研究会 HP: <https://bit.ly/3NQ56eE>
九特連大会 HP: <https://bit.ly/3t9YArk>

